



■■■ 第1例会レポート ■■■

今夏久しぶりにリアルで実施された「日韓ユースセミナー」の報告会を、Yサ・ユース事業の一環として行いました。参加ユースの今村舞雪さん（コッコリーダー）と春日恵介さん（けいちゃんリーダー）、スタッフの遠藤恵美子さん（キョメリーダー）をゲストに迎えました。他にセミナー参加者として中村ワズ、深谷ワズが同席でした。コッコリーダーからは、5日間の日程説明に続いて、「始めは翻訳アプリに頼っていたコミュニケーションが、次第にお互い拙い英語や身振り・感情などで、コミュニケーションを取るようになった。」との報告が印象的でした。また国は違っても友達になれることを実感したとの発言は、YMCAの国際交流の原点を見させてもらった気がします。けいちゃんリーダーからは、最



初の不安な気持ちから、人のつながりが徐々に進んで、安心できる居心地の良さを感じたことこの報告がありました。プログラムの中味は、

「日韓料理対決」「KPOPファッションショー」など以前には思いつかなかった新しさが組み込まれ、時代の変化を感じました。また両国の歴史を学ぶことから始めるのではなく、友達作りから両国のことを学ぶ姿勢・意欲が生まれることも学んだ気がします。他の参加者からもコメントをいただき、改めて名古屋ワズが大切にしてきた韓国・ソウルとのユース交流の意味を確認することができた例会でした。



諸報告では川本ワズから、クリスマス例会の説明・提案があり、詳細は第2例会にて。ただし今から招待者、ゆかりの方など積極的に声をかけるアピールがありました。

(加藤 明宏)



■■■ 第2例会レポート ■■■

と き：2023年11月20日（月）19：00～20：15  
と ころ：Zoomリモート

1. 2023-2024 上半期～下半期例会プログラム

月日	曜日	会場	プログラム
12	9 土	名古屋ガーデンパレス	①クリスマス例会
	18 月	ZOOM	②役員会
1	9 火	名古屋YMCA	①新年会
	15 月	ZOOM	②役員会

- ・12月第一例会 12/9（土）17：00 礼拝 17：45 祝会 ホテル名古屋ガーデンパレスにて
- ・下半期例会プログラム  
3月第一例会は京都グローバルワズメンズクラブとの交流例会とし、会場はラ・スースを第一候補とする（ラ・スース確認担当：川本ワズ）。プログラムは2月に実施予定の名古屋YMCA フィリピンフレンドシップキャンプ参加者による報告会とし、ユース世代のリーダー・スタッフとの交流を通じYサ事業を意識する。
- ・今後の卓話候補者：山本さん親子（陸上5000mアスリートと父親）

2. CS事業について（11/21クラブ員に別メールで送付したCS事業企画書参照ください）

- ①12/16（土）愛実の会クリスマス会 10：00 集合 戸田・渡辺・川本・谷川・加藤・他5～6名

10:45～11:15（30分）昼食あり 12：00 終了 ホール  
コンサート+ケーキ3個（平野）

- ②ミカン狩りに施設招待の実施  
12/25（月）常滑のミカン園 担当：谷川

3. YMCA関連（名前は参加した方です）

- ・10/15（日）街頭募金：中村・相馬
- ・10/29（日）南山バザー：加藤・戸田・都築・相馬・川本・谷川・中村・中井
- ・11/4（土）チャリラン：川本・都築・谷川・戸田・加藤・中村  
名城公園 ラッフル券を17人分 一人1,000円徴収しています
- ・11/16（木）チャリティーゴルフ：川本、中村、深谷 鈴鹿カントリークラブ  
※小尾ワズは参加登録されたが、当日体調不良の為欠席
- ・11/18（土）YMCA/YWCA 合同祈祷週集会：  
中村、中井、川本、西村、川口、加藤 YWCAにて
- ・12/9（土）クリスマスキャロル in タワーズ  
集合 12:40 場所：名古屋駅前タワーズガーデン下の駅前ロータリー（13:00から資材荷下ろし、ガーデン搬入）  
演奏機器・資材の撤収完了後終了予定 15:30頃  
内容：①演奏機器・資材の管理移動運搬（人手が必要です）  
②キャロル横断幕、各種幟旗の組み立てと本番中の保持（7～10人）

- ③開催前から終了までの間の広報（プラカード巡回 4人、歌詞カード配布 4人）
- ④本番中の会場安全管理（4～6人）

4. その他

- ・プリテン原稿担当（毎月 20 日締め切り:渡辺ワイズまで）1 月巻頭言（深谷）12 月第一例会レポート（相馬）、その他のプリテン原稿確認 各部会等参加者は連絡ください。

- ・名古屋ワイズメンズクラブ ZOOM 契約更新料金 ¥22,100 支出する。（渡辺ワイズ）

ハッピーバースデー

メネット 1日 鈴木 郁子 さん

第 30 回 チャリティーラン レポートレポート

11 月 4 日（土）好天に恵まれ 第 30 回チャリティーランがランナー 445 名、その他多くの応援者や運営ボラン



ティアが参加して開催されました。コロナ禍を経てようやく笑顔で集まり、応援の声がけもできたイベントとなりました。名古屋クラブも運営ボランティアはもちろん、ラッフル券の購入、チームエントリー支援などで協力しました。サポートを必要としている子どもたちに寄り添い、楽しく走ること、誰かの「隣り人」になることの趣旨を今後も忘れず、走り続けたいと思います。ワイズメンで走ることは無理かな？



（大会実行委員長 加藤明宏）

今月の聖句

「こうして、全部合わせると、アブラハムからダビデまで 14 代、ダビデからバビロンへの移住まで 14 代、バビロンへ移されてからキリストまでが 14 代である。」

（マタイによる福音書 1 章 17 節）

西村 清

パレスチナ・ハマスがイスラエルにロケット攻撃をしかけ、イスラエルは報復としてガザを空爆し、またガザ北部に侵攻している(10月31日)。まさに「目には目を、歯には歯を」(マタイ 5:31) の思いである。イスラエルはハマ스에ロケット攻撃され、また多くの人々が拉致されているということで、「自衛権」を主張してガザへの攻撃、侵攻をすすめている。そのようにしてガザを実効支配しているハマスの壊滅を目指している作戦だとも言われている。ただパレスチナ人にとっては、天井のない監獄と言われるように、ガザ全体がフェンスで囲まれ、出入りする時にも検問があるという占領政策に対する「憤り」がこのようなイスラエル攻撃になったとも考えられる。

もともとパレスチナ地域は AD70 年ころまでユダヤ人が住んでいて、ローマによってエルサレム神殿が破壊され、ユダヤそのものが属国となった。ユダヤ人はパレスチナ地域から追放され、いろいろな国に離散した（ディアスポラ）。ただ紀元前 2 千年からのユダヤ人はこの地域に定着していった歴史がある。その歴史がマタイによる福音書の最初の系図で、新約聖書の最初を開くとこの系図が出てくるのでうんざりするが、いろいろなことを暗示している。

一つはイエス・キリストの系図に女性が 4 人出てくる。聖書の時代には女性は一人前の人間として見られていなかった。ましてタマルは義理の父によって子供をもうけ、ラハブは売春婦でカナン人（異邦人）、ルツはモアブ人で、異邦人の中でも最もユダヤ人に嫌われた民族だった。さらにウリヤの妻とあり、ダビデ王はウリヤを激しい戦場に送り戦死させ、その妻を自分の女にしてダビデの次の王ソロモンを生ませる。それぞれ女というだけでなく、問題をかかえた女性がイエス・キリストの系図の中に含まれている。神の選民と考えているユダヤ人にとって、異邦人とは食事と一緒にしない、異邦人と親しくするのは汚れると考えていたので、この系図はユダヤ人にとって屈辱的なものであった。

また～から～まで 14 代とあり、これは必ずしも正しくない。ダビデという名前はヘブライ語ではダウイツで、ヘブライ語はアルファベットに数字がついていてダウイツは 4+6+4=14 になり、この系図はダビデモチーフが隠されている。ちなみにイスラエルの国旗もダビデの星になっている。それほどにダビデは偉大な王だったと考えられていた。



# Menettes of Nagoya Y's Men's Club

## 今月の聖句 特別編

「実に、キリストはわたしたちの平和であります。二つのものを一つにし、ご自分の肉において敵意という隔ての壁を取り壊し、規則と戒律づくめの律法を廃棄されました。こうしてキリストは、双方とご自分において一人の新しい人に造り上げて平和を実現し、十字架を通して、両者を一つの体として神と和解させ、十字架によって敵意を滅ぼされました。」（エフェソの信徒への手紙2：14～16）

西村 清

今年の8月11日、そして10月25日の朝日新聞に出ている記事で、第二次世界大戦後の1953年、戦犯としてフィリピンのモンテルパに収監されていた105人がキリノ大統領の特赦で日本に帰国した。フィリピン軍による戦後の裁判では、民間人殺害や性暴力などの罪で日本軍137人が有罪となり、半数以上が死刑判決を受けたが、執行されたのは17人だけであった。

キリノ大統領は、自身の家族4人が日本軍に殺害されたのになぜ、このような寛大な決断ができたのか。家族を殺害されたキリノ氏は、戦後親族宅に身を寄せ、毎日家族が命を落としたマニラの方向に沈む夕日を見つめていたと伝えられている。

戦時下、英語のできる人を「宣撫班」の宗教担当の一人として藤田正武牧師がいた。人口の80%を超えるクリスチャンの国フィリピンの占領政策で、抗日運動を抑え込む目的のためであった。

戦後、彼は長くロサンゼルスで日系教会の牧師をしていて、2000年に天に召された。私が留学し、日系教会の牧師をしていた時、同じ日系教会の牧師会で、月に一回顔を会わせていた。

戦時中、旧日本軍占領下のフィリピンで、戦争で傷ついた自国軍人らのために、日本軍が禁じる募金活動をし、そのことが発覚して、後のフィリピンYMCA総主事を務め

たバスカラ氏が憲兵に連行された。かつてYMCAの主事でもあった藤田正武中尉は「募金を許可したのは私です」とあえてその証言をした。彼は軍事裁判にかけられ、帰国後も拷問を受け、歯を何本も失う苦しみを経験した。

一方、釈放されたバスカラ氏が率いるフィリピンYMCA総主事として、戦後、モンテルパ刑務所に収容された日本人戦犯の助命運動を続け、妻子を殺害されたキリノ大統領にもバスカラ氏は直接寛大な処分を働きかけ、1953年大統領による特赦が実現した。

新聞報道では、1950年頃渡辺はま子さんが歌って、一世を風靡した「モンテルパの夜は更けて」という歌が人々の心を動かし、戦争の犠牲者でもある同胞の釈放を真摯に願った思いがフィリピンのキリノ大統領を動かし、戦犯の釈放に大きな力になったと報じられている。しかしそれだけでは戦犯者は帰ってこられなかったでしょう。当時の反日感情が残るフィリピンで、バスカラ氏からの直接寛大な処分を働きかけ、大統領の特赦が実現したと考えるのが自然ではないだろうか。バスカラ氏が回想録で、みずからの行動を「苦しみの時に私を救ってくれた藤田の愛の業への返礼だった」と振り返っている。また「藤田は、日本軍の中尉で、東京YMCA主事、立場を異にしても使命を共にする同労者としての友情と兄弟愛を示してくれた」とも述べている。



## YMCA ニュース

### クリスマス

各保育園や幼稚園で11月の下旬よりアドベントが行われます。野外活動やユーススポーツ、乳幼児クラスでもクリスマスの意味を伝えるお話がなされます。先生たち、保育士の方々、リーダー、スタッフがどんなふう伝えるか工夫しています。そして、この時期は、クリスマス献金を3つの目的でお願いをしています。「青少年育成」はユースリーダーの育成と学童キャンプでの貧困児童対策、「国際協力」は日韓ユースセミナーやフィリピンキャンプと留

学生支援、「地域奉仕」では「平和」への願いとしてクリスマスキャロルと他関係団体への支援を行っています。今年はいウクライナとロシアの戦争、イスラエルとガザ地区など「平和」には程遠いことが起こっています。多くの子どもたちも犠牲になっています。私たちに今できるのは、少しでもそのエリアの方々の支えとなるように献金することぐらいしかできません。小さな力を合わせてクリスマス献金にご協力いただき、少しでも支えになればと思います。全世界の子どもたちに「平和」のプレゼントが届けられますようにサンタさんとイエス様をお願いしたいですね。

(中井信幸)

### ブリテン委員 よりお願い

各号に例会以外の活動報告を掲載しておりますが、全て当委員では把握できておりません。ワイズやYMCA関係の行事に参加された方はその旨ブリテン委員にお知らせください。宜しくお願いします。